

# 巻頭言

## 「2021年の始まり」

理事長 新谷 友良

新型コロナウイルスの感染が収まりませんが、皆さま明けましておめでとうございます。有効な治療薬の開発、ワクチンの普及、集団免疫の獲得といったキーワードに曙光を探す新年が始まりました。

11月末、50年以上交流のなかった中学・高校時代の同級生からメールが来ました。同窓会の住所録で、わたしの現在の住所が彼の本籍地の近くであることを見つけ、懐かしくなりメールしたとのこと。今は大月に住んでいて、月に何回か東京に出てくるので機会があれば会いたいという内容でした。彼とは中学の終わりか高校になってからか、数人で雑文を載せたノートを回覧した仲間で、その後文芸部を作ったときも加わってくれました。大変伸びやかな文体の持ち主で、整った字で書かれた原稿を良く覚えています。コロナ禍ですが、近いうちにぜひ旧交を温めたいと思っています。

そのメールがあった翌日、京都に戻ることを計画していた大学の友人から「京都に住民票を移した。観光客の少なさそうな所を選んでブラブラしている」とメールが来ました。そこには「先日、(卒業した)大学の正門前を通りかかったら、腕章を付けた大学職員がいっぱい異様な雰囲気。そうこうするうち、熊野寮自治会の一団が梯子を持って出現。職員集団と揉み合った後、何故か休憩を宣言。二度目のトライではバルコニーに梯子をかけ、よじ登り「占拠」と書かれた懸垂幕を垂らした後、駆けつけた(京都)府警に促され退去した」とあり、写真が三葉付いていました。「お前、ポケットと見とったんか」と突っ込みたくなりますが、彼も後期高齢者間際、写真を撮りメールするのが精一杯かと、同情しました。

年末になってもコロナ感染者の拡大は止まらず、「Go To…」の騒動もあって、一向に気持ちが弾まない毎日でしたが、旧友の音信を得て首から肩にかけての緊張が緩み、元気が出ました。月めくりカレンダーの最後の月、いくつかの協会関係の予定を確認して、病院通いの日時も問題なし、溜まった書類を整理する日を決めて、通っているスポーツジムの最終日を記入しました。2020年はこれで終わり、今までと気分を変えるために、新しい年の月めくりカレンダーは伊東屋で厚手のものを購入して吊ってあります。最初に書き入れるのは、1月1日の初詣。いつも行く神楽坂の赤城神社は混みそうなので、今年は近所の鎧神社か氷川神社を考えています。